



2年目となる2016年度のIBM健保組合のデータヘルス計画では、初年度の実績等を踏まえて実施した各種事業および健康課題への対策、取り組み状況、その効果等についてご報告します。



糖尿病の重症化予防

糖尿病性腎症は、人工透析が必要となる最も大きな原因となっています。人工透析に移行すると、週2～3回の通院が必要となり、医療費も年間一人当たり約500万円かかります。そこでIBM健保組合では、糖尿病が重症化するリスクの高い方が人工透析に移行するのを防止するため、2015年度より糖尿病重症化予防プログラムに取り組んでいます。

●糖尿病重症化予防プログラムの概要●

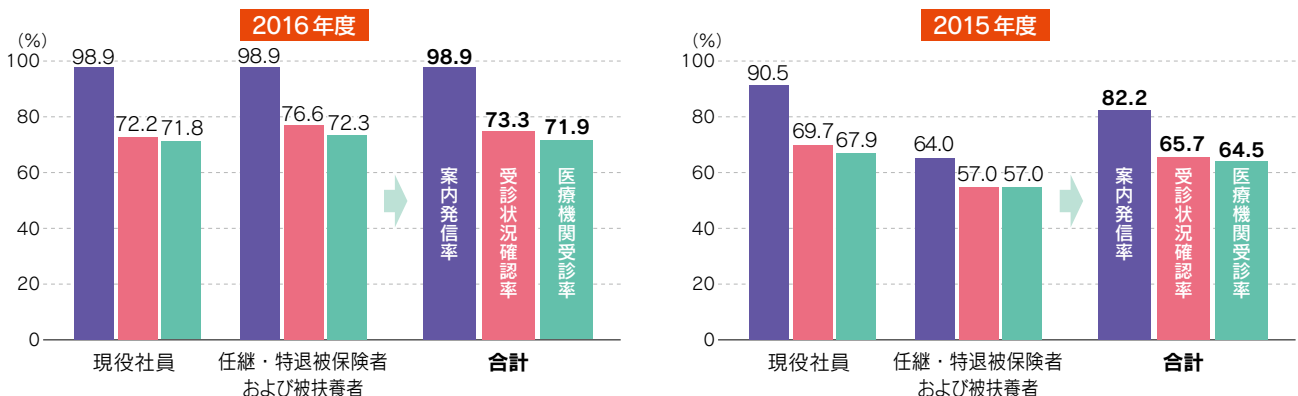
- ① 健康診断でHbA1c7.4%以上を対象者として抽出。
- ② 医療機関の受診状況を確認。
- ③ 希望する方に糖尿病専門医をご紹介します。

Report 1 受診状況確認率、医療機関受診率とも向上

2016年度の現役社員の対象者は273名、任継・特退被保険者および被扶養者の対象者は94名でした。2015年度と比較すると、合計の受診状況確認率は65.7%→73.3%、医療機関受診率は64.5%→71.9%と高くなっています。

2017年度も引き続き糖尿病重症化予防プログラムを実施しております。対象になられた方には個別にご案内しておりますので、ぜひご活用ください。

●対象者への案内発信率、受診状況確認率、医療機関受診率



Report 2 今後の課題

日本糖尿病学会では、合併症予防のための目標値をHbA1c7.0%未満としています。2015年度に続き2016年度も対象者となっている方が42.7%もいらっしゃいました。治療を受けていても、数値の改善が難しい場合もあるようです。だからこそ、合併症対策として、定期的に合併症の状態を確認するための検査を受けることが大切です。

★対象者のみなさまへ — 合併症予防のために★

人工透析以外にも途中失明の原因で最も多いのは糖尿病です。糖尿病による目の病気（糖尿病性網膜症）、腎臓の病気（糖尿病性腎症）、手足のしびれなど末梢神経の病気（糖尿病性神経障害）が糖尿病の三大合併症です。

受診状況を確認すると、すでに医療機関を受診している方も多いことがわかりますが、合併症予防の対策として、眼底検査、尿中アルブミン測定、腱反射テストなど

は実施されていますか？ 合併症の多くは動脈硬化などの血管系の障害によって起こるので、血圧やコレステロール、中性脂肪、心電図などの検査も大切です。

もし、通院していてもしばらくこれらの検査を受けていない方は、主治医にご確認ください。合併症を予防するためには、定期的な検査によって早期発見に努めること、そして糖尿病の正しいコントロールを続けることが重要です。